

広がる世界への想い～ヘボン博士の轍～

米満 仁紀

日本航空高等学校

初めてローマ字を習った時、自分の名前をローマ字で書けるようになって感動したのを覚えている。ところがその後せっかく覚えたローマ字のつづりが違っていると知る。ノリトシのS IはSH IヨネミツのTUはTSUだと教えられて頭の中がハテナだらけになった。ローマ字は何種類かあり、訓令式の方が簡単だがパスポートの名前のような公的書類や駅名地名では難しい方のヘボン式が使われていて、よりによって僕の名前には、2ヶ所も異なるつづりが入っていると判った。ヘボン式はヘボン博士が幕末に日本に来て作ったと聞いて、余計なことをしやがってと博士を恨んだ位だ。

しかしコロナ禍で家族と早朝に散歩するようになり、自宅から数分の場所にヘボン博士自宅跡石碑があるのを偶然見つけてから、だんだんと気になり始めた。大きな眼おおきなとがった鼻、石碑に彫られた顔の通りだったら、当時の日本人は驚き恐れただろうと心配になった。ヘボン博士夫妻が日本に来た目的は、キリスト教の伝道、当時幕府は伝道を禁じていたが、医療行為は黙認されており、医者として優秀なヘボン博士に患者が殺到したそう。しかし当時の日本人にとって外国人は身体の大きな恐ろしい存在で、敵でしかなく住みやすかったとは思えず、実際夫人が襲われたと記述があった。日本の前に中国に渡って結局帰国しているのに、日本にはアメリカに子供を残したまま30年以上も留まっている。日本という国や人と離れがたかったのか、近代化に向け発展していく日本という国に興味を持ったのかと想像が広がって調べることに夢中になって、退屈だと思っていた開港資料館や歴史資料館にも行って、掘り下げて調べてみることにした。

教育者としての功績もあり、ヘボン塾を開いて医学や英語だけでなく世界に通用する視野の広い人材を育てた。聖書を日本語に訳す辞書編纂のためにヘボン式ローマ字を考案した。英語を使う外国人が日本語を読めるように、それまでのローマ字を改良し辞書の見出しに使用したため日本国内に広まって行った。ローマ字はそれぞれ役割があるとはいえ、ヘボン式ローマ字によって世界との「言葉によるつながり」が生まれたことで運ばれてきた文化や後の教育にも大きく影響したことを知り、自分の都合だけで恨んだりして申し訳なく思うと共に、初めて世界と日本の繋がりについて思いを巡らすようになった。

それまでローマ字も英語もいやいや学習していて、押し付けられた学習でしかなく世界への入り口だなんて考えたこともなかった。海外の話題をメディアで見ても自分には関係ないと思っていて、これじゃあ鎖国の日本人少年と変わらない。今でも英語は苦手だけれど、遠い異国の地で布教という目的のためとはいえ、世界と日本を結ぶために苦心してくれた結果ならば、もう少し前向きに取組もうと思った。情報過多な時代だからこそ正しい語学によって情報を選べるように自分をアップデートし、世界で今何が起きているのかを知る努力をすることが第一歩だと痛感した。

僕は今秋、大きな決心をした。過敏性大腸炎という持病がある僕にとって学校は辛抱の場所ではなかったが、いつか自分と同じような子供をサポートしたいとの目標に向け、体調を整え目標を定めて勉強するため通信制高校に転校させてもらった。この決心のきっかけも、広い視野を持って勉強したいという自身の意欲に気が付いたからだ。世界と繋がるヘボン博士とローマ字に興味を持ったおかげで、僕の世界も無限に広がっていくだろう。

＜参考資料＞

横浜市歴史博物館（HP含む）／横浜開港資料館（HP含む）／
横浜市観光サイト 「ヘボン博士住居跡」横浜市中央区山手町、「ヘボン塾跡」横浜市中央区山下町／
東京有明医療大学HP／明治学院大学HP／公益財団法人日本心臓財団HP／歴史街道HP